備考

工事施工管理基準

### 工事施工管理基準(農地関係) 新旧対照表

改正後

工事施工管理基準

### 工事施工管理基準

改正前

# 工事施工管理基準

#### 1 目的

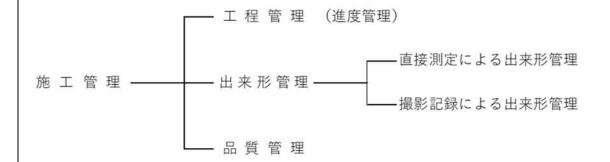
この工事施工管理基準(以下「管理基準」という。)は、愛知県農林基盤局(農地関係)が発注する 工事について、その施工にあたって工事の工程管理、出来形管理及び品質管理の適正化を図るため、請 負者が実施する施工管理の基準を定めたものである。

#### 2 適用

この管理基準は、愛知県農林基盤局(農地関係)が実施する工事を請負により施工する場合に適用するもので、この管理基準と設計図書が一致しない条項は設計図書が優先する。

#### 3 施工管理の基本構成

施工管理の基本構成は次のとおりとする。



#### (1) 工程管理

契約工期を考慮し、工事の施工達成に必要な作業手順及び日程を定めて、工程内容に応じた方式 (ネットワーク方式、バーチャート方式等)により工程管理表を行い、工事実施途中(旬ごと)で 計画と実績を比較検討の上、必要な処置を講じるものとする。

(2) 直接測定による出来形管理

工事の出来形を把握するため、工作物の寸法、基準高等の測定項目を施工順序に従い直接測定(以下「出来形測定」という。)し、その都度、結果を管理方法に定められた方式により記録を行い、常に適正な管理を行うものとする。

(3) 撮影記録による出来形管理

出来形測定、品質管理を実施した場合、又は施工段階(区切り)及び施工の進行過程が 確認できるよう、撮影基準等に基づいて撮影記録を行い、常に適正な管理を行うものとする。

(4) 品質管理

資材等の品質を把握するため、物理的、化学的試験を実施(以下「試験等」という。)し、その都度、結果を管理方法に定められた方式により記録を行い、常に適正な管理を行うものとする。

### 4 施工管理の実施

(1) 施工管理責任者

請負者は、愛知県公共工事請負契約約款第 11 条に規定する技術者等と同等以上の資格を有する者を、施工管理責任者に定めなければならない。施工管理責任者は、当該工事の施工管理を掌握し、この基準に従い適正に管理を実施しなければならない。

#### 1 目的

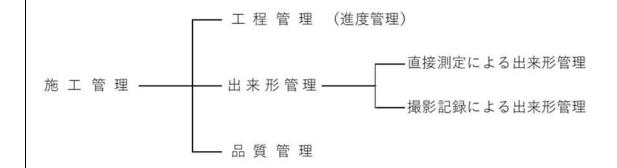
この工事施工管理基準(以下「管理基準」という。)は、愛知県農林基盤局(農地関係)が発注する 工事について、その施工にあたって工事の工程管理、出来形管理及び品質管理の適正化を図るため、請 負者が実施する施工管理の基準を定めたものである。

#### 2 適用

この管理基準は、愛知県農林基盤局(農地関係)が実施する工事を請負により施工する場合に適用するもので、この管理基準と設計図書が一致しない条項は設計図書が優先する。

#### 3 施工管理の基本構成

施工管理の基本構成は次のとおりとする。



#### (1) 工程管理

契約工期を考慮し、工事の施工達成に必要な作業手順及び日程を定めて、工程内容に応じた方式 (ネットワーク方式、バーチャート方式等)により工程管理表を作成し、工事実施途中(旬ごと) で計画と実績を比較検討の上、必要な処置を講じるものとする。

(2) 直接測定による出来形管理

工事の出来形を把握するため、工作物の寸法、基準高等の測定項目を施工順序に従い直接測定(いか)「出来形測定」という。)し、その都度、結果を管理方法に定められた方式により記録を行い、常に適正な管理を行うものとする。

(3) 撮影記録による出来形管理

出来形測定、品質管理を実施した場合、又は施工段階(区切り)及び施工の進行過程が 確認できるよう、撮影基準等に基づいて撮影記録を行い、常に適正な管理を行うものとする。

(4) 品質管理

資材等の品質を把握するため、物理的、化学的試験を実施(以下「試験等」という。)し、その都 度、結果を管理方法に定められた方式により記録を行い、常に適正な管理を行うものとする。

### 4 施工管理の実施

(1) 施工管理責任者

請負者は、愛知県公共工事請負契約約款第 11 条に規定する技術者等と同等以上の資格を有する者を、施工管理責任者に定めなければならない。施工管理責任者は、当該工事の施工管理を掌握し、この基準に従い適正に管理を実施しなければならない。

工事書類の簡素化

備考

### 工事施工管理基準(農地関係) 新旧対照表

改 正 後

工事施工管理基準

#### (2) 施工管理項目

施工管理(工程管理を除く)は、別表第1「直接測定による出来形管理」、別表第2「撮影記録による出来形管理」及び別表第3「品質管理」により行うものとする。なお、この管理基準又は特別仕様書に明示されていない事項及び不明な事項については、監督員と協議するものとする。

(3) 施工管理の実施と提出内容

施工管理は、契約工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保が図られるよう、工事の進行に 平行して、速やかに実施し、その結果を監督員に報告し、確認を受けるものとする。提出様式は別 表第4「施工管理記録様式」を参考に適正な方式を選定するものとする。なお、「出来形管理測定結 果一覧表」については、測定箇所ごとに設計値、管理基準値などを記載の上、該当工種の着工前ま でに提出するものとする。

#### (4) 施工管理上の留意点

- ア 完成後に明視できない部分又は完成後に測定困難な部分については、完成後に確認で きるよう、測定・撮影箇所を増加する等、出来形測定、撮影記録に特に留意するものと する。
- イ 完成後に測定できないコンクリート構造物の出来形管理の測定は、監督員の承諾を得 て、型 枠建込時の測定値によることができるものとする。
- ウ 管理方式が構造図に朱記、併記するものにあっては、管理基準値を合わせて記載する ものと する。
- エ 施工管理の初期段階においては、必要に応じて測定基準にかかわらず測定頻度などを 増加するものとする。
- オ 出来形測定及び試験等の測定値が著しく偏向したり、バラツキが大きい場合は、その 原因を 是正し、常に所要の品質規格が得られるように努めるものとする。
- (5) 検査(完成・既済部分) 時の提出内容

請負者は、完了検査、出来形検査、既済検査時に、この管理基準に定められた施工管理の結果を 提出するものとする。

#### (6) その他

- ア 規格値の上下限を超えた場合は「手直し」を行うものとする。ただし、上限を超えて も構造 及び機能上、支障ない場合はこの限りでない。
- イ 施工管理に要する費用は、請負者の負担とする。
- ウ 工事施工管理基準の摘要において、一般土木工事以外は原則として下記の基準を準用 するものとし、その適用に当たっては監督員の指示によるものとする。
  - ① 施設機械工事等施工管理基準(農林水産省農村振興局整備部設計課監修 R4.3)
  - ② 農業集落排水施設 検査・施工管理指標(案)

(農業集落排水事業諸基準等作成全国検討委員会 H12.4)

#### 5 用語の定義

変更なしにつき省略

工事施工管理基準

#### (2) 施工管理項目

施工管理(工程管理を除く)は、別表第1「直接測定による出来形管理」、別表第2「撮影記録による出来形管理」及び別表第3「品質管理」により行うものとする。なお、この管理基準又は特別 仕様書に明示されていない事項及び不明な事項については、監督員と協議するものとする。

改正前

(3) 施工管理の実施と提出内容

施工管理は、契約工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保が図られるよう、工事の進行に 平行して、速やかに実施し、その結果を監督員に報告し、確認を受けるものとする。提出様式は別 表第4「施工管理記録様式」を参考に適正な方式を選定するものとする。なお、「出来形管理測定結 果一覧表」については、測定箇所ごとに設計値、管理基準値などを記載の上、該当工種の着工前ま でに提出するものとする。

#### (4) 施工管理上の留意点

- ア 完成後に明視できない部分又は完成後に測定困難な部分については、完成後に確認で きるよう、測定・撮影箇所を増加する等、出来形測定、撮影記録に特に留意するものと する。
- イ 完成後に測定できないコンクリート構造物の出来形管理の測定は、監督員の承諾を得 て、型 枠建込時の測定値によることができるものとする。
- ウ 管理方式が構造図に朱記、併記するものにあっては、管理基準値を合わせて記載する ものと する。
- エ 施工管理の初期段階においては、必要に応じて測定基準にかかわらず測定頻度などを 増加するものとする。
- オ 出来形測定及び試験等の測定値が著しく偏向したり、バラツキが大きい場合は、その 原因を 是正し、常に所要の品質規格が得られるように努めるものとする。
- (5) 検査(完成・既済部分) 時の提出内容

請負者は、完了検査、出来形検査、既済検査時に、この管理基準に定められた施工管理の結果を 提出するものとする。

(6) その他

- ア 規格値の上下限を超えた場合は「手直し」を行うものとする。ただし、上限を超えて も構造 及び機能上、支障ない場合はこの限りでない。
- イ 施工管理に要する費用は、請負者の負担とする。
- ウ 工事施工管理基準の摘要において、一般土木工事以外は原則として下記の基準を準用 するものとし、その適用に当たっては監督員の指示によるものとする。
  - ① 施設機械工事等施工管理基準(農林水産省農村振興局整備部設計課監修 H28.3)
  - ② 農業集落排水施設 検査・施工管理指標(案)

(農業集落排水事業諸基準等作成全国検討委員会 H12.4)

#### 5 用語の定義

変更なしにつき省略

字句訂正

改正後	改 正 前	備
ル・骨材の比重、粒度が設計値に対して差異がある場合はさらに検査の上、配合の変更その他のなの変更をの他でなどとる。  2. 細骨材の表面水率、塩化物含有量、スランプ、空気量についてはその測定値の変動状態によい対称の再調査、配合の再検討、計量機器の点験をの他適切な処置をとる。  3. コングリートの強度については、管理を損重していい。 はいっぱんの子では、場合は材料のの品質配合、機砂の指度、練り混ぜ方法等を検査し、適切な処置をとる。  4. レディーシクストコングリートについて、次ののは質配合、機砂の指揮、練り混ぜ方法等を検付材料の品質配合、機砂の指揮、練り混ぜ方法等を検査し、適切な処置をとる。  4. レディーシクストコングリートについて、次のは、11 万をを使用し、コングリートのアルカリ総合の使用 アルカリ最が表示されたポルトランドを大小と適合する高値をし、10コングリート中のアルカリ総量の抑制 アルカリ最が表示されたポルトランドを大小を様とが (1)コングリート中のアルカリ総量を23の64度で3.0kg以下にする。 (2)抑制効果のある混合セングト適合する高値をないは固め表の表に合せメントに適合する高値をないは関係がないよりを使用し、コングリート加引に含まれるアルカリをが表でないより、は、だいに適合するアルカリーを使用する。 (2)か割効果のある提合セングルカリーとないまして、お言を材でアルカリーを使用する。 (2)か割効果のある使用する。 (2)か割効果のある使用する。 (2)か割効果のある使用する。 (2)かまないよりのを使用する。	ルード 体付の比重、粒度が設計値に対して差異がある場合はさらに検査の上、配合の変更その他適りな必置をとる。  「2. 細件材の表面水等、塩化物含有量、スランプ、空気量についてはその測定値の変動状態による。 点検をの性適りな処置をとる。 点検をの性適りな処置をとる。 まコンツートの強度については、管理を慎重に行い強度の変動低下を木然に防ぐように努める。 測定値が所定の値に重しない場合は材料の品質配合、機械の特度、繰り混ぜ方法等を検査化、適りた処置をとる。 3. コンツリートの対度に至しない場合は材料の品質配合、機械の特度、繰り混ぜ方法等を検査に、適りた必要をとう。 1. レディーミクストコンツートについて、次の (1) 及び(2)を優先したアルカツ骨材抑制対策が行いコングリート中のアルカリ器量の抑制 アルカリ量が表示されたパルトランドセグトを入びを登しました。 あるいはIIS R 5211 高炉セグントに適合する声がをセグトに適合するカタイアッシュセダントを種(スライアッシュセダントを種(スライアッシュセダントを種(スライアッシュセダントを種(スライアッシュセダントを種(スライアッシュセダントを種(スライアッシュををしが変しが変し、とは合材でアルカリ骨材反応抑制効果の確認されたものを使用する。 無認されたものを使用する。	変更なし
1. 記録の方法  利 課	管理方式 主語線の方法 対験結果は下記によりまとめる。 (1)骨材の比重及び吸水毒剥®、骨材の ふるいがは対象、骨材対像成積割に記載する。 2)細骨材の表面水準対験結果は、所定 の様式に整理する。 (2)細骨材の表面水準対験結果は所定の が表式に整理する。 (3)塩化物含有量、スランプ、空気量、圧縮 強度及び曲げ強度の試験結果は所定の 様式により取りまとめ、測定値が20点以上 の場合は工程能力図、X-Rs-Rm又は X-R管理図等により管理し、20点末満の 場合は工程能力図、X-Rs-Rm又は X-R管理図等により管理し、20点末満の 場合は出機・質表による。 2. 管理 (1)コンツリート材料については骨材試験 一覧表により設計値と比較検討する。 (3)塩化物含有量、スランプ、空気量圧縮 強度及び曲げ強度については、管理試験 記録により影験値が所定の値に達している るかどうか本検査し、また、そのバラツキを 2. 管理 (1)コンツリート材料については、管理試験 可度及び曲げ強度については、管理試験 可度及び曲げ強度については、管理試験 可度及び由げ強度については、管理試験 可度なび前に対しているかがっかなが の性能を評価したものを用いる。たお、一 同の検査に必要な測定回数は4回とし、 割定はその平均値により行う。	
(参考) 規 格 値   (参考) 規 格 値   (参考) 規 格 値   面	(参考) 現 格 値   15 R 5210~5214 参照   15 R 5210~5214 参照   16 上 58 K 6   17 A 5 K 6   18 K 6   19 K 7 A 5 K 7 A 5 K 6   19 K 7 A 5 K 7 A 6 K 8 K 8 K 8 K 8 K 8 K 8 K 8 K 8 K 8 K	
JIS R 5201 JIS A 1102 JIS A 1109 JIS A 1109	JIS R 5201 JIS A 1102 JIS A 1104 JIS A 1109	
古城 (測定) 項目   セベントの物理試験   骨材の単位容符質量試験   御骨材の密度及び   吸水率試験	山質各理 一ト開係 影像 (測定) 項目 セグトの物理試験 骨材の単位容積質量試験 細骨材の密度及び 吸水率試験	
型	照 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	

改正後	改正前	備る
他 置 (3)安全と認められる骨材の使用 請負者の立会ものもと骨材を採取し、 骨材のアルカリシリカ反応性試験 (化学 以又はモルクルバー法)を行い、その結 以が無害と確認され、た骨材を使用する。 なお、化学法については工事開始前、 工事中1回/6ヶ月かっ流地が変わった 場合に信頼できる試験機関で試験を行う ものとし、またモルタルバー法は試験成績 書により確認をするととは、JIS A1804コ ンカリート生産工程管理用試験法により 骨材が無害であることを確認する。 ただし、次の場合はこの限りではない。 2)工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった 場合 IISに基づき6ヶ月ごとに行う試験を化学法 で行う場合は、試験に用いる骨材の採取に 骨材を重者、生コンカリード生産者及び結負 者が立会えば、JISに基づく試験結果が使用 できる。 たお、この試験結果は1ヶ月以内できれば、 位上事でも使用できるが、この場合、請負者 は同一の骨材生産場所がら離えが表している。 は同一の骨材生産場所がら離入されている。 とを確認するものとする。	他 置 高負者の立会いのもと骨材を採取し、 骨材の アルカリシリカ反応性影響(化学 建文はモルタルバー法)を行い、その結 果が無害と確認された骨材を使用する。 なお、化学法については工事開始前、 工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった 場合に信頼できる試験機関で試験を行う ものとし、またモルタルバー法は影験を行う ものとし、またモルタルバーはは影像により 骨材が無害であることを確認する。 ただし、次の場合はこの限りではない。 1) 工事開始前 コンツリート打設開始日の1ヶ月以内に、 愛知県農林水産部等で発注した他工事の 請負者の立会いによる誤験結果がある場合 は、その影像結果を使用できる。 2) 工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった 場合 は、その影像結果を使用できる。 なお、この影像結果は1ヶ月以内であれば 他工事でも使用できるが、この場像結果が使用 でおったの影像結果は1ヶ月以内であれば 他工事でも使用できるが、この場合、請負者 は同一の骨材生産場所がら刺入されている ことを確認するものとする。	字句修正
部 大 大	部 日 大	
(参考) 根 格 値	(参考) 規 格 値 総乾密度: 2.5 g/cm3以上 吸水率: 3.5%以下 ただし、砕石、高戸スラグ相骨材及び電気炉 のJSを適用する。 JIS A 5005 (コンツート用砕石及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンツート用み子管材 JIS A 5011-1 (コンツート用子グ管材 JIS A 5011-1 (コンツート用子グ管材 JIS A 5011-1 (コンツート用再生育材刊) 40 %以下 編集コンツート 35 %以下 編集コンツート 35 %以下 無時 鉄筋コンツート 38%以下 無時 鉄筋コンツート 1%以下 無情・鉄筋コンツート 1%以下 無情・鉄筋コンツート 5%以下 無情・鉄筋コンツート 5%以下 無情・鉄筋コンツート 5%以下 無情・鉄筋コンツート 5%以下 無情・鉄筋コンツート 0.5%以下 無情・鉄筋コンツート 5%以下 無情・鉄筋コンツート 5%以下 無情・鉄筋コンツート 0.5%以下 無情・鉄板コンツート 5%以下 無情が・鉄がコンツート 0.5%以下 無荷・鉄板コンツート 0.5%以下 無荷・鉄板コンツート 0.5%以下 無荷・鉄板コンツート 0.5%以下 無荷・鉄板コンツート 0.5%以下 無荷・鉄板コンツート 0.5%以下 無荷・鉄板コンツート 0.5%以下 無荷・鉄板コンツート 0.5%以下 無荷・鉄板コンツート 0.5%以下 無荷・鉄板コンツート 1.0%以下 無常社 1.0%以下	
映像 (制度) 基準   操取場所及び材質が変わる毎に1回。生コン 工場で製造する場合は工場の映像成績書 「よる。		
JIS A 1121 JIS A 1121 JIS A 1126 JIS A 1137 JIS A 1105 JIS A 1105 JIS A 1105	対策方法 JIS A 1110 JIS A 1126 JIS A 1126 JIS A 1126 JIS A 1126 JIS A 1127 JIS A 1122	
計数(測定)項目 相骨材の常度及び 吸水率試験 化骨材の作りへ別試験 骨材中の核石量試験 骨材中の粘土地量試験 石炭・亜炭等で比重1.95の 液体に浮くもの	加表第3 品質管理 二 (1) 和骨材の密度及び ツ 材	
A     コンクリーマ       A     ① 本本	照 型 ロンクリーマ 終	

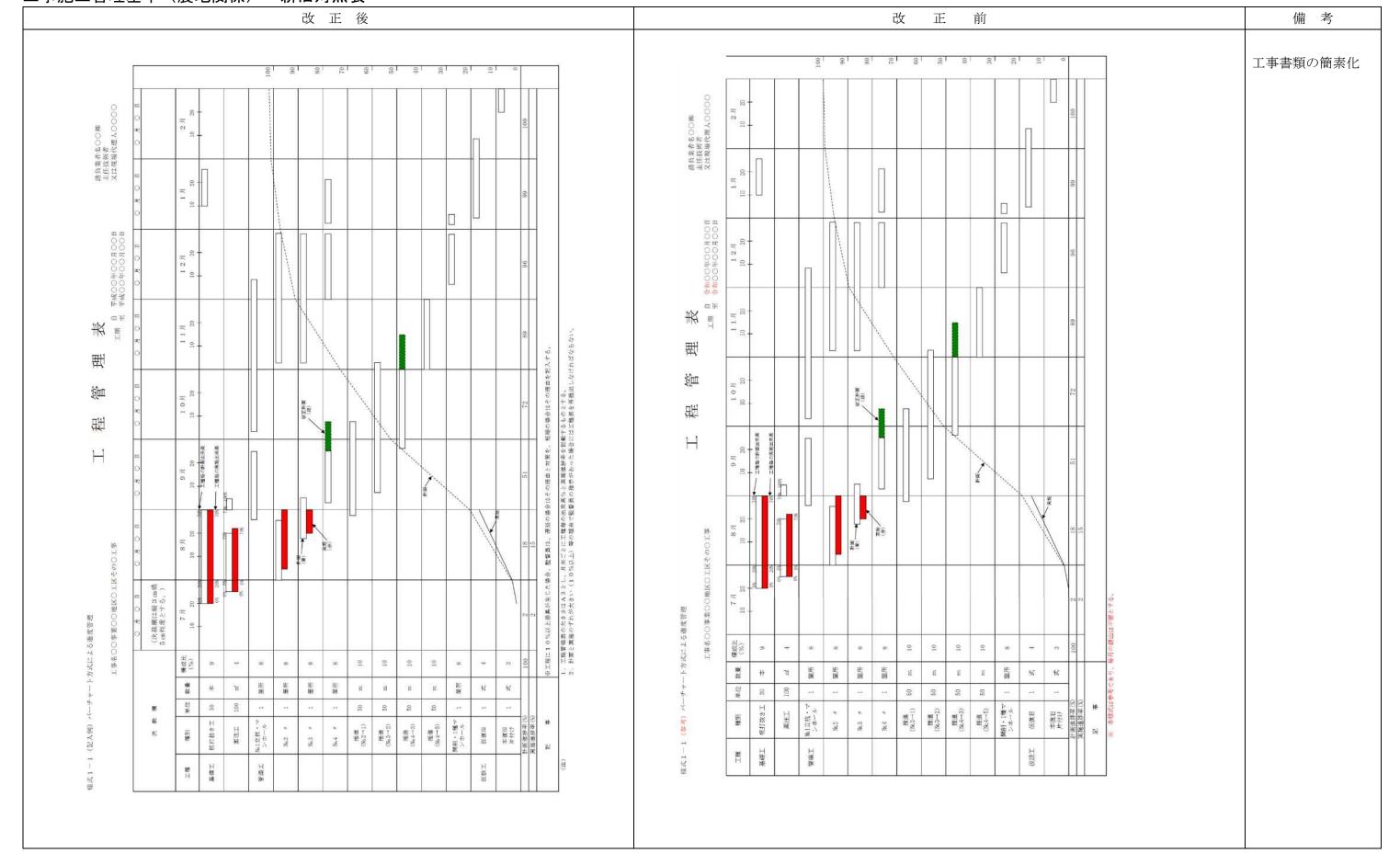
			改正後			24				改 正 前		2	備考
が 強		・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は 省略できる。				墓							処置の明確化
管理方式	工事開始前 工事期間中1回/6ヶ月 かつ産地が変わった場合					禁用力式	2 70						
(参考)規 格 値		0. 3 ㎏/m3 以下	1. 測定した単位本量が配合設計士15 kg m3 の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 3. 測定した単位本量が配合設計士15 kg m3を設え 120kg/m3の範囲にある場合 は、本量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後配合設計士15kg/m3以内で安定するまで1とは、その運搬車の生コンは打設する。その後配合設計士15kg/m3以内で安定するまで1とは、20 回進能して「15kg/m3以内で安定するまで1とは、20 回進能して「15kg/m3以内で安定するまで1とは、20 回進能して、60 の割定を行う。なお、「15kg/m3以内で安定するまで1とは、20 回進能して、本量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後のの割定を行う、配合設計との途の調査とは、全の後のの割定を行う、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価によい。ただし、示方配合の単位本の方と、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価によい。ただし、示方配合の単位本を担の上限値は、報省がの最大寸法が20mm~25mmの場合を表して175kg/m3、40mmの場合をは155kg/m3を表本をする。	2. 5cm ± 1. 0(cm) 5cm 及び 6. 5cm ± 1. 5 8cm 以上 18cm 以下 ± 2. 5 21cm ± 1. 5	<b>空値±1.5%</b>	(参考)思 格 信		1 N	0	4. 別なした単化水量の配子的な計工してまい。 2. 測定した単化水量が、配合設計工してまい。 2. 測定した単化水量が、配合設計工15 kg/m3を超え上20kg/m3の範囲にある場合 は、水量変動の原因を調査し、生コン製造 業者に改善を指示し、その運搬車の生コン は打設する。その後配合設計工15kg/m3以 内で安定するまで3とは、2 回連総して で安定するまで3とは、2 回連総して 15kg/m3以内の値を機関することがの 3. 配合設計工20kg/m3の指示値を超える 場合は、生コンを打ち込まずに持ち帰らせ、 水量変動の原因を調査し、生コン製造業者 に改善を指示しては打ればならない。その後の 配合設計工15kg/m3になるまで、全運搬車 の制定を行う。配合設計とびをがは から、配合設計とび整の維め値が高 たお、管理値はまたは指示値を超える場合は、 なお、管理値はまたは指示値を超える場合は、 のよりにできる。 できたり、その後の 配合設計とい整の維め値が高 のもにでしてい、ただし、示力配合の単位水 量の上限値は、程序体の展大寸技が20m ~25mの3場合は175kg/m3、40mの3場合	2. 5cm ± 1. 0 (cm) 5cm &U 6. 5cm ± 1. 5 8cm &L 18cm &F ± 2. 5 21cm ± 1. 5	<b>指定值</b> ±1.5%	
試験(測定) 基準		生コンの場合は工場の配合報告書による。 箱砂を使用する場合2回/目、 その他の場合1回/適	100m3以上の場合:2回/目(午前1 回、午後1回)、重要なコンツート構造物 び場合は重要度に応じて100~150m3的 れたときとし、測定回数が多い方名採用する。 素が5m以上の数節コンツリート構造物)は、 高さが5m以上の数節コンツリート構造物)は、 高さが5m以上の数節コンツリート構造(ソ フレキン外製(面要なコンツリート構造() アル・下部工(PCは際、)、アント及、 高さが3m以上の概・水門・値門とするが、 当談手業において重要なコンツリート構造 物と位置付けられる場合は、対象とするも のとする。	日緒強度試験用供試体採取時及び指卸し時に品質変化が認められたとき	圧縮強度試験用供試体採取時及び荷卸し時に出質変化が認められたとき	無社(是原)婚祀		生書による。	その他の場合1回/適 100m3以上の日々・5回 / 日(左巡1		圧縮強度試験用供試体採取時及び信仰し時に品質変化が認められたとき	圧縮強度試験用供試体採取時及び背割し 時に品質変化が認められたとき	
試験方法	JIS A 1145X(± 1146	JIS A 1144 若しく は右頬できる機関 で評価を受けた戦 駿方法	The state of the s	JIS A 1101	JIS A 1128 他	試勵方法	JIS A 1145X/1	JIS A 1144 若しく は信頼できる機関	で評価を受けた試験方法	1. ホーングリート 等の参数なコンタート 等の参数なコンタートを続き、1日当年の70世上が経過、1日当年の70世上が変化日本が100世別と上述するコングリートにを対象とする。 エアメーター法 又はこれと同程度 符し合は、それ以上 のもし、施工計画書 に記載さるとともに、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	JIS A 1101	JIS A 1128 他	
試験(測定)項目	骨材のアルカリシリカ反応性 試験	配合記錄 基化物含有量影輳 1	単位大量測定	メランプ対響	空気量試験	·····································	ート 対機 対機	配合試験塩化物含有量試験		単位水量測定	メンソノ政際	空気量試験	
L種 区分	ログタニ 単文化		Н			過数第3 □ 報   □ 報   □ 4	n 7 を 会た u	本 (S)	相 -	1			

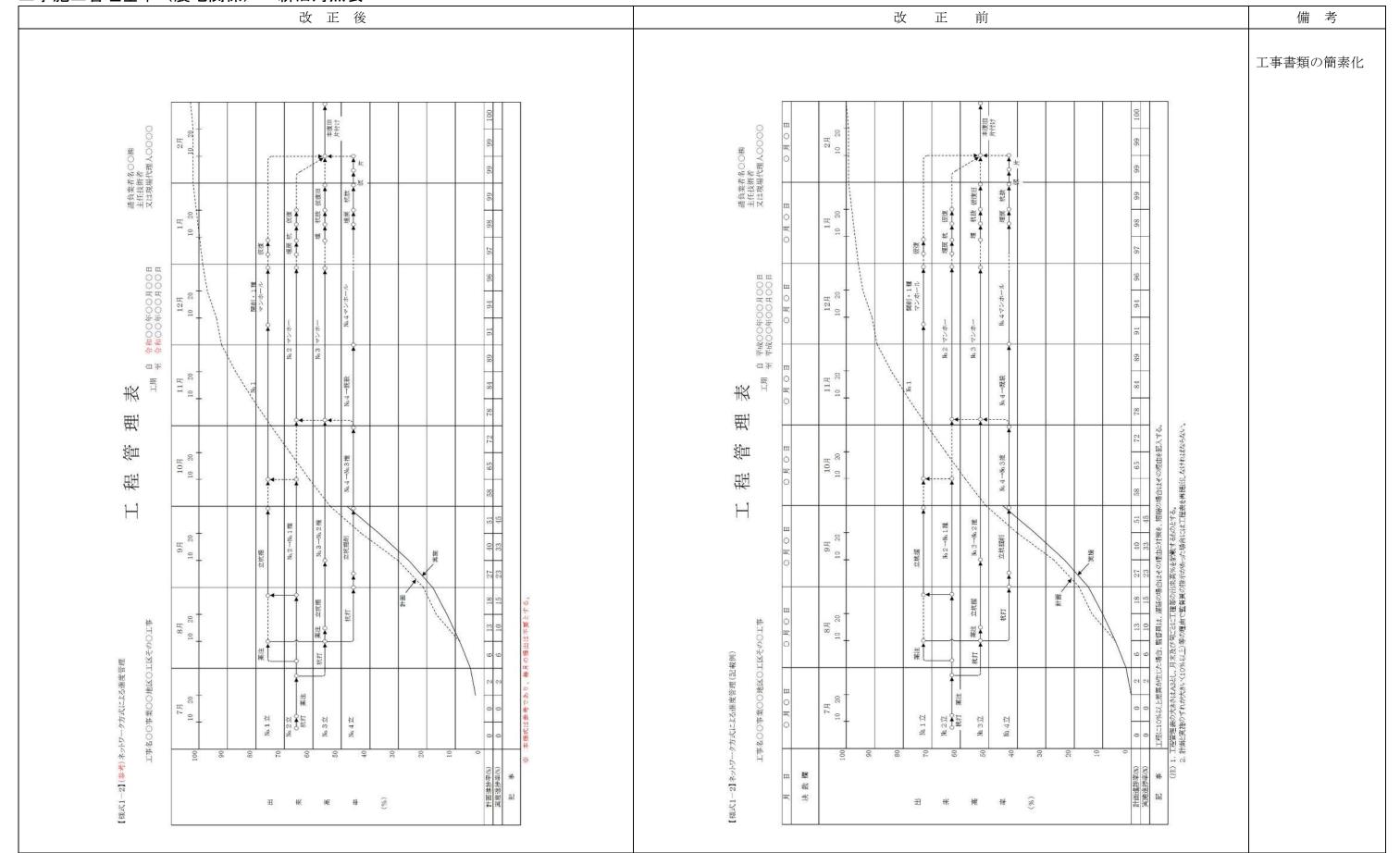
到				変更なし
海 抽 方 达		(秦) 五大大		
(参考) 規 格 値 現場補のコングリート 同時に作った3本の供試体の平均値は、 基準強度の80%を1/200確率で下回って はならない。また、3年電度を1/4以上の確 率で下回ってはならない。 レディーミクストコングリート 1回の影響結果は、呼び強度の85%以上 でなければならない。3回の影響結果の平 均値は呼び強度以上でなければならない。 なお、1回の影像とは採取した試料で作った。 3個の供試体の平均値で表したもの。	1回の影響結果は、呼び強度の85%以上でなけらばならない。 3回の影響指表の平均値は呼び強度以上でなければならない。 本お、1回の意見とは操取した試料で作った3個の供試体の平均値で表したもの。	(参考)規格値 現場練りコンクリート 同時に作った3本の供評体の平均値は、 基準強度の80%を1、2000確率で下回って はならない。また、基準速度を1/4以上の確率で下回って はならない。また、3回の強機結果の平 がはければならない。3回の影機結果の平 均値は呼び強度以上でなければならない。 かた 1回の影像に関してはならない。	1回の影響結果は、呼び強度の85%以上でなけらばならない。 3回の影響結果は、呼び強度の85%以上でなけらばならない。 3回の影響結果の平均値は呼び強度以上ではければならない。 なお、1回の意見とは採取した試料で作ったお、1回の意見とは採取した試料で作った。	
記験(測定) 基準  1. 供款体の試料は、荷創し場所にて採取 ます。 2. 試験(測定) 基準 1回/ 日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m3年に回とする。 (77…3個、928…3個)とする。 (47…3個、928…3個)とする。 (42ディージストコングリート工場(IS表 はレディージストコングリート工場(IS表 にはディージストコングリート工場(IS表 にはディージストコングリート工場(IS表 可認証工場)において作成された出質証 明書の提出のみとすることができる。	1. 道路舗装用コンクリートにおいて試験する。 2. 供試体の試料は指削し場所にて採取する。 3. 試験基準 打設1日につき2回(午前・午後)の割合で 行う。 ※11. 事当たりの総打設量が少量の場合は 監督員の指示により記憶を省略することができる。	   (	明書の提出のみとすることができる。  1. 道路舗装用コンクリートにおいて試験する。  2. 供試体の試料は荷削し場所にて採取する。  3. 試験基準 行設1日につき2回(午前・午後)の割合で行う。 テストビースは1回につき3個とする。 ※1工事当たりの総打設量が少量の場合は 監督員の指示により試験を省略することができる。	
JIS A 1108	JIS A 1106	試験方法 JIS A 1108	JIS A 1106	
別表第3 品質管理	曲/強度執験	別表第3 品質管理 工種 区分 対 施 カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ カ リ リ リ リ リ リ	曲打強度試験	

								改	正	後																		改	正		前									ĺ
<ul><li>処 置</li><li>(1)メーカーの報告書による場合は</li></ul>	内容チェックをし、疑問があれば 立会検査をする。	(2) 不合格になった材料は、使用してはならない。																		災 窟			(2) 不合格になった材料は、使用してはならない。																	字句修正
管理方式 (1) 測定した結果が20点以上の場	合は管理図表による。 20点未満の場合は結果一覧表 による。																			管理方式	(1) 測定し; 合は管理!	20点未満の場合は結果一覧表 による。																		
款數(測定)基準 (1)JIS製品	個数の標準ロット数以下の場合は、製 ・ 造業者の実施しているJISによる品質管理 のエーロの出来によりの第一との	#ロット数以上の場合は、ロット数、又は *Aの主要が下、 エローシュンを発展を表	らの音奏事で、土をこれのの現状を終い は会からのとする。 ただし、現場~嵌入の物度、外鏡、形	状については全数を、寸法(又は重量)に ついては100個、又はその端数毎に、1個	を加出して再検査するものとする。 試験(測定)項目、方法等は種類により	・異なり複雑であるので、必要なJISは前も て充分調べておく必要がある。		(2)]IS同等品所項に準する。	(3) 113 外部品	のJacとのる場格(愛知県農林基體局農 知じ定める場格(愛知県農林基體局農 地関係アレキャストコングリート製品規格)	により実施するものとする。ただし、定めのないものは、新仮のJIS製品の品質管理の規定を準用する。		(4)農林水産部工場検査合格品 JIS製品に準する。							討嫌(測定)基準	(1)川S製品 個券の適権ロット券以下の場合は 製	<ul><li>■※ン保申197%以下の過じた、</li><li>・ 造業者の実施しているJISによる品質管理の工場報告者により確認するものと</li></ul>	し、標準ロット数以上の場合は、ロット数、又はその端数毎に、工場における強	度試験に立会込のとする。 ただし、現場〜機入の都度、外観、形	状については全数を、寸法(又は重量) については100個、又はその端数毎に、	1個を抽出して再検査するものとする。 試験(測定)項目、方法等は種類により	- 異なり複雑であるので、必要なJISは前 もって充分調ぐておく必要がある。	(2)]]S同等品	前項に準する。	(3)JIS外製品 別に定める規格(愛知県農林水産部農	地開係二次製品規格)により実施するものとする。ただし、定めの次いものは、類似のJIS製品の品質管理の規定を準用す	Š	(4)農林水産部工場検査合格品 JIS製品に準ずる。					,		
300Æ			150* 130*				17577	700本	(10)30		200個	1,000個	1,000個	1,000個	7,000代		1,000個	1,000個	1,000個		300≭				100本			1,000本			500個	1,000個	1,000個	1,000個	1,000個	19000	1,000個	1,000個	1,000個	
標準ロット数	直營 6150~350	♦ 400 ~ 1,000	$\phi$ 1,100~1,800 $\phi$ 2,000~2,400	\$2,600~3,000	異形態、T字額、Y字額、短額 4.額 + 額	<b>                                       </b>	外径 6300~400	φ 450~600 φ 700~1,200	1											標準ロット数		直着 6150~350		$\phi$ 1,100~1,800 $\phi$ 2.000~2,400	\$2,600~3,000	異形管、丁字管、Y字管、短管 曲管、支管		外径	φ700~1,200											
試験方法 JIS A 5371		JIS A 5372				A 5372	JIS A 5373		JIS A 5372	0100 47 010	JIS A 5372	JIS A 5372	JIS A 5372	JIS A 5372	IIS A 5371	IIS A 5371		JIS A 5372 IIS A 5371		試験方法		⋖ .	JIS A 5372				JIS A 5372		JIS A 5372	4	JIS A 5372	JIS A 5372	JIS A 5372	, , , , , , , , , , , , ,	IIS A 5371		K	JIS A 5372	4	
規格 JIS A 5371	JIS A 5372	JIS A 5372				JIS A 5372	JIS A 5373		JIS A 5372	2100 47 CFF	JIS A 5372	JIS A 5372	JIS A 5372	⋖ .	IIS A 5371	IIS A 5371	JIS A 5372	JIS A 5372 JIS A 5371	JIS A 5406	100	Α.	K .	JIS A 5372				JIS A 5372	A	JIS A 5372	A	JIS A 5372	JIS A 5372	JIS A 5372	JIS A 5372	< <	A	JIS A 5372	4 4	JIS A 5406	
種類 規類 財政のプレート管及び JIS A	西コンクリート語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(ヒューム管)				遠心力鉄筋コンクリート杭	7個発和子の形件と1000円	ンアナンション よれ語う 力能顕英 シアメアンドコングリート杭 (PHC杭)	コンクリート矢板	在コンクリートフリュー A. B.f.K	数節コングリートペンチンリューム	鉄筋コンクリート組立土止め	鉄筋コンクリートU形 (U字溝)	道路用鉄筋コンクリート側溝	B¢.	5元%が及び少年回場が1	コンツー にお 及び鉄筋コングリー に形	組合せ暗集プロックコンクリート権みプロック	集用コンクリートプロック	(1) プレキャストコングリート製品関係 種類 種類 1	無筋コングリート管 及び 鉄筋コンクリート管	Amーンソフィョ 込む力鉄筋コングリート管	(ヒューム管)				遠心力鉄筋コングリート抗	アフテンション方式遠心力高強度プレストレストコンツリート杭(PHC杭)	17.7011—15.44数	5	教術コングリートフリューム 及び祭師コングリートペンチフリューム	鉄筋コングリート組立土止め	鉄筋コングリートU形 (U字溝)	道路用鉄筋コングリート側溝	一・境界プロッ	他元璋界及び歩車追賓券) マグリートL形及び	鉄術コングリートL形	組合せ暗渠ブロックコンパリート様ユブロッカ	建築用コングリートプロック	

		岱	T I	. 後	Ž .		改		正	F	前				+
	危 醒							処置							変
	管理方式							管理方式							
	試験(測定)基準	(1) JIS製品 製造会社の品質試験結果(ジレシート)	<ul><li>○ 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3</li></ul>	毎に2本、50tを超える場合は50t毎に2 本の割合で試験を行うものとする。	ただし、10t末満の場合は製造会社 - の品質試験結果で確認する。			試験(測定)基準	四落SIf (1)	製造会社の品質試験結果(ジャツート) で確認する。 (2) IIS外間品	10   75cm   10   10   10   10   10   10   10   1	本の割合で剥壊を行うものとする。 ただし、10t未満の場合は製造会社	の国質式製造木に無端とる。		
						寸法、外観、化学成分及び強度影響		試験項目	強度試験	成分及び強度試験	寸法、外觀、化学成分及び強度試験	寸法、外觀、化学成分及び強度試験	寸法、外観、化学成分及び強度試験	寸法、外權、化学成分及び強度試験	
	試験方法	JIS A 5525	JIS A 5526	JIS A 5528	JIS A 3101	JIS A 3111		試験方法	5525	A 5526	A 5528	JIS A 3101	JIS A 3111	JIS A 3112	
	規格	JIS A 5525	JIS A 5526	JIS A 5528	JIS A 3101	JIS A 3111		規格	JIS A 5525	JIS A 5526	JIS A 5528	JIS A 3101	JIS A 3111	JIS A 3112	
(2) 鋼材関係	種類	鋼管杭	H形御花	熟問压延綱矢板	一般構造用圧延鋼材	再生網材	(2) 輝材悶係	極類	鄭管杭	I 下 領 抗	熱間圧延鋼矢板	一般構造用圧延網材	再生鋼材	鉄筋コンクリート用棒鋼	

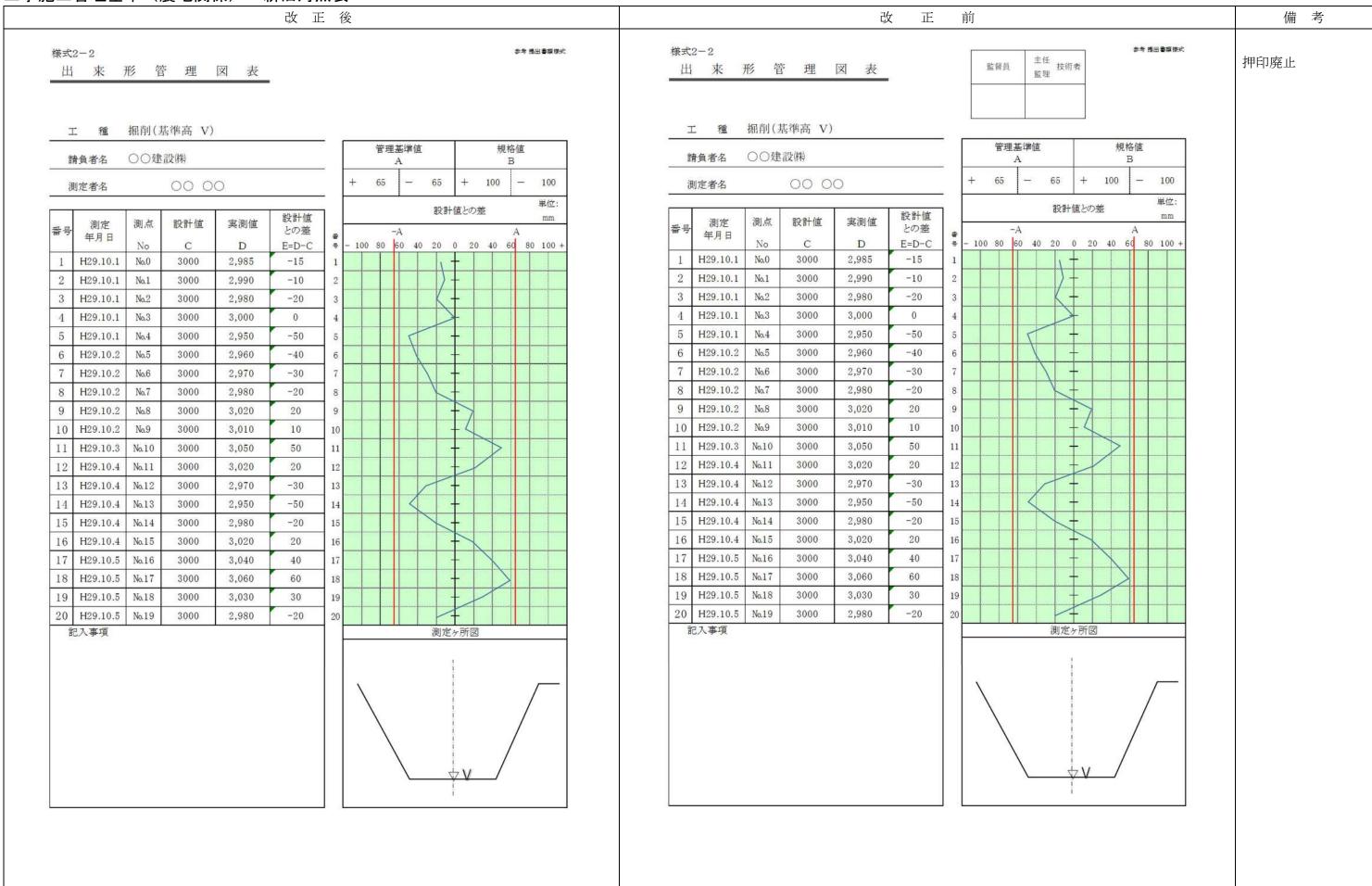
	改正後				改正前			備
	別表第4 工事施工管理記録様式 目 次	工事施工管理	基準 別表第4		別表第4 工事施工管理記録様 目 次	工事施工管理基	基準 別表第4	
<b></b> 東式1-1(参考)	工程管理表(バーチャート方式)(※提出不要)	•••••	73	様式1-1	工程管理表(バーチャート方式 記載例)	•••••	73	
<b></b> 議式1-2(参考)	工程管理表(ネットワーク方式)(※提出不要)	•••••	74	様式1-2	工程管理表(ネットワーク方式 記載例)	•••••	74	
<b></b>	出来形管理測定結果一覧表	••••	75	様式2-1	出来形管理測定結果一覧表	•••••	75	
<b></b>	出来形管理表	•••••	76	様式2-2	出来形管理表	•••••	76	
<b></b> 美式3	杭打ち成績表		77	様式3	杭打ち成績表	•••••	77	
<b></b>	鋼管溶接測定結果一覧表	• • • • • •	78	様式4-1	鋼管溶接測定結果一覧表	•••••	78	
<b>美式4</b> -2	点検表(鋼管溶接、塗覆装)	•••••	79	様式4-2	点検表(鋼管溶接、塗覆装)	•••••	79	
<b></b>	管水路ジョイント間隔測定結果一覧表	••••	80	様式5-1	管水路ジョイント間隔測定結果一覧表		80	
<b></b>	埋設とう性管たわみ量管理表		81	様式5-2	埋設とう性管たわみ量管理表	•••••	81	
<b></b>	鉄筋組立検査結果一覧表		82	様式6	鉄筋組立検査結果一覧表	•••••	82	
<b></b>	- X-R管理データシート		83	様式7-1	- X-R管理データシート	•••••	83	
<b></b>	- X-R管理データシート		84	様式7-2	- X-R管理データシート	• • • • •	84	
<b>美式7</b> 一3	- - - - - - - - - - - - - -		85	様式7-3	Ī−R管理図	••••	85	
<b></b>	X-Rs-Rm管理データシート	•••••	86	様式8-1	X-Rs-Rm管理データシート	*****	86	
<b></b> (表式8-2	X-Rs-Rm管理データシート(2)	•••••	87	様式8-2	X-Rs-Rm管理データシート(2)	•••••	87	
<b></b>	X-Rs-Rm管理図		88	様式9	X-Rs-Rm管理図		88	





	改	正後						改	正 前			
₹2-1 出来形管理測定結果	リー覧表 <u></u>			参考	提出書類様式	様式2-1 出来形管理	<b>単測 定結 果</b>	一覧表		監督員	+H	提出書類様式者
重			-			工種					2	
負者名			測定者名			請負者名				測定者名		
答 線 名 測定種目 引 点 等 部 位 等	設計値	測定値	設計値と 測定値の差 C=B-A		備考(合否)	路線名測点等	測定種目部 位等	設計値	測定値	設計値と 測定値の差 C=B-A	管理基準値 D	備考(合否)
	A	Б	C-B-A		(66)							XII II /
			1 2									
			2									
									2			
定部位見取図]		記事				[測定部位見取図]			記事			
		その 2.	合否判定で否の の措置について A~Dの単位に 大きさに合致し;	記入する。 ついては、對	数字				その 2.	合否判定で否の の措置について A~Dの単位に なきさに合致し	記入する。 ついては、 <u>巻</u>	文字

改	E 後	改 正 前	備考
k式2-2 出 来 形 管 理 図 表	参考 提出書類探式	様式2-2     出来形管理図表     監督員     主任 技術者 監理	押印廃止
工種		工種	
請負者名	管理基準値     規格値       A     B	管理基準値     規格値       請負者名     A     B	
測定者名	+ - + -	測定者名 + - + -	
2-2 測定 測点 設計値 実測値 設計値 Lの美	設計値との差 単位: mm	型 別 点 製 計値 実 測値 設 計値 数 計値 との 差 mm	
等号 年月日 No C D E=D-C	<del>*</del> <del>*</del> <del>-</del> 0 +	番号 例だ 例ぶ 設計値	
2			
3	3 +	3 3 +	
5	4 -	4 5 5 +	
6	6 +	6 6 +	
7 8	7 + +	7 7 7	
9	9 +	8 9 9 +	
10	10 —	10 10 +	
11 12	11 + +   +	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
13	13	13	
14 15	14 +	14 14 15 14 15 14 15 14 15 14 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15	
16	16 +	16	
17	17	17 18	
19	19 -	19	
20	20	20 20 1 1 1 20 1 1 1 1 20 1 1 1 1 20 1 1 20 1 1 20 1 20 1 20 1 20 1 20 1 20 1 20 1 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20	
<ol> <li>「工種名」は、掘削(基準高[V])、コンクリート工(厚さ[T])、鋼矢板工(中心線のずれ[e])等と記入する。</li> <li>「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測定番号を記入する、</li> <li>設計値との差を求め、右グラフに折れ線グラフで、管理基準値を実線で示す。</li> </ol>		1. 「工種名」は、掘削(基準高[V])、コンクリート工(厚さ [T])、鋼矢板工(中心線のずれ[e])等と記入する。 2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は 当該測定番号を記入する、 3. 設計値との差を求め、右グラフに折れ線グラフで、 管理基準値を実線で示す。	



			改	正 後										改正	前					備
様式3	枯甘生	成績表					8	参考 提出書願様式	様式	3		枯打ち	成績表			監督員	主任 技術者 監理		参考 提出書類様式	押印廃止
-	₩ 11 S	) 灰 順 衣							_			101 11 10	<b></b>		L	1.0				
工事名			_		請負者名				<u> </u>	事名				-		請負者名			52	
工種名			-		測定者名				工程	懂名				-		測定者名				
杭打 ち込 杭番号 月日	号 杭規格	測定時 杭深度 (m)	ハンマー 落下高 (cm)	打込回数	リ バ ウンド (cm)	平均 沈下量 (cm)	支持力 (kN)	摘要	3	杭打 ち込 月日	杭番号	杭規格	測定時 杭深度 (m)	ハンマー 落下高 (cm)	打込回数	リ バ ウンド (cm)	平均 沈下量 (cm)	支持力 (kN)	摘要	
						1														
[14 x ] 98 (m) ]									F+*	配置図										
[杭配置図]					適用公式名	名			LAA		1					適用公式名	3			
					設計支持力	ħ										設計支持力	b			

様式4-1 _鋼 管 溶 接 洇													正 前	·1		備
	則定結り	果一『	覧表				参考 提出書類 探式		銭式4−1 鋼管溶接	測定新	古果一	覧表	1	主任 技術者 監理	参考 提出書類様式	押印廃止
工事名				e e	請負者名			100	工事名				. :	請負者名		
工種名				ei )	測定者名				工種名				-	測定者名		
測定位置 —	実	測	1	値	管理基準値	摘	要	i	測定位置	実	. 1	則	値	管理基準値	摘 要	
W AL ILL IS	X	Y	Х'	Y'	1 4 4 1	21-9		6		X	Y	X'	Y'			
		_						5								
								5								
								3								
		+						i.								
								:								
										-	-					
								1								
								=								
								1				-				
								=								
							i									
								2								
			-							-				·		
								,		<u> </u>	<u> </u>	l		L		

						以	正	後											改	正		前					
₹5−2													参考 提出書類模式	様式5-2								監督	員	主任 技術	14	参考提出書類様式	押印廃
設と	5性	管た	わみ	メ量	管理	里表								埋設	とう性	管た	わる	タ 量	管 珥	退表				m. 44			
								請負	者名												_	請負者	名				
重(長さ)							<b>-</b> \$)	測定	者名				<u> </u>	管種(長	<u>z</u> )						y 8 <u>2</u>	測定者	名				
Stati adva		管据	付時	9		管頂埋	見戻し時	寺	ţ	埋戻し	完了時					管据	付時		3	管頂埋	戻し時		坦	里戻し完了	時		
測定 位置	Du	たわ み率	Dh	たわ み率	Du	たわ み率	Dh	たわ み率	Du	たわ み率	Dh	たわ み率(	D+t(mm) 内径)(管厚)	測定位置	Du	たわ み率	Dh	たわ み率	Du	たわ み率	Dh	たわ み率	Du	たわ み率 Dh	たわみ率	D+t(mm) (内径)(管厚)	
管番号)	mm	12000	mm	%	mm	%	mm	2200	mm	%	mm	%		(管番号	t) mm	3200	mm	%	mm	52000	mm		nm	% mn	9090	(1117/11/11	
																									23	,	
																								, i			
たわみ			4.17.27											たね	oみ率のi ^ ×												
		×100													2R	-×100	)(%)										
		△X= 2R:管				は [2F	R-(Dh	(+t)]												‡ [2R	-(Dh-	-t)]					
		t:管厚		L'[日.]王												2R:管 t:管厚		心胆.往									
\$1-\	1 -2	ーキング	<b>光</b> 七 柳	1-+21+	ス細点	とはなる	コルナ	Z.							23-7	<b>1</b> - 1	<i>₩</i> 11. D01	l= balk	7 300 d	+1++2 = 1	7 4-9						
									07の2	1 管水	路(埋設	とう性	管)の		注)1. マ 2. 浪								の21	管水路(	里設とう	生管)の	
		定基準						tunt	American Co.						泪	定基準	による	o o								250 15-3 150 C 100 C	
	3. 矢	板引抜	き時の	測定値	は自	言頂埋)	戻し時	」の欄に	こ測定	値を記	入する。				3. 夕	板引抜	き時の	)測定値	直は「管	管頂埋房	『し時』	の欄に	則定值	直を記入す	る。		

					Ī	改 ፲	E 後	<b>发</b>										改	正	前	ÍΪ				備
a											_	۲. **	of .	1							1			1	押印廃止
		垂										· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			北										
100	測定者名	組立状況(継手長、曲げ状況、結束等)	判定										請負者名	測定者名	組立状況(継手長、曲げ状況、結束等)	判定									
Win	恶 _		判定									**			eer 4	判定									
		カンS り (mm)	検査値									主任 監理 技術者			か <i></i> あり(mm)	検査値									
		JAN.	設計值	4.							_	超				設計值									
			判定								-					判定									
		mm)	設計値との推					+							哥(mm)	設計値との差		7						<sup>'</sup> ζ <sup>'</sup> <sub>0</sub>	
崧		中心間隔(u	検査値と								記入要領 1. かぶりの許容誤差は土 φかつ最小かぶり以上とする。 2. 鉄筋間隔の許容誤差は土 φとする。 3. 判定欄は合格、不合格を記入する。	***			中心間隔(mm)	検査値						$\dagger$		記入要領 1. かぶりの許容誤差は土¢かつ最小かぶり以上とする。 2. 鉄筋間隔の許容誤差は土¢とする。 3. 判定欄は合格、不合格を記入する。	
] 配			設計値機								小かぶり <u>に</u> る。 る。	1				設計値		13						最小かぶりする。する。する。	
括		教(本)	判定								<ul><li>ゆかつ展。</li><li>士ゅとす</li><li>を記入す。</li></ul>	指			本数(本)	判定		-						エゥかつ」 はエゥと 格を記入・	
첱		径(mm)及び本数(本)	設計値								誤差は土 容割差は 、不合格。	<b>被</b> 柏			径(mm)及び本数(本)	設計值						+		容觀差は: 許容觀差 格、不合	
											道 9の許容調 間隔の許 欄は合格	組立		箇所:		年月日								要領 Syの許な Syの許な 防間隔の 定欄は合	
	測定箇別	测定	4月								記入要領 1. かぶりの 2. 鉄筋間 3. 判定欄	稅	工種	測定箇所			_							記入 1. か. 2. 鉄道 3. 地道	
緓		南	10						7			<b>秦</b> 大 <b>6</b>			n n	(H									

					改	正後											改	正 前	j					備
美式7-1										ē	8考提出書類祭式	様式7-	-1					監督員	主任 指	支術者			<b>沙科提出書類様式</b>	
5	<del>-</del> - R	管理	! デ ー	タシー	- ト(1)								$\overline{X}$ –	R 管 B	理デー	タシ	ート(1)		監理					押印廃止
		and Tub			. (*/	•								H	787		. 17/	=/						
工事名						-	請負者	6 名				工事名						-	請負者	f 名				
工種名(名称	r)					-	測定者	个名				工種名	(名称)					_	測定者	<b>个名</b>				
項目名(品質							作成者				₹?		(品質特性)						作成者	千 名				
27.7. 2. (14.2.)	(1713)	T	設計	1016	depta tal	İ	1				1				設計	M-114	o datum m	- I	1	r	i.			
			基準値	130000000000	直限界	測定 単位		日標準量							基準値	上限	各値限界 下限	測定 単位		日標準量 大き	20			
		-	A	上限	下限	201		資 大き 間隔	_		-				A		- 1. bix		1	資 大さ 料 間隔				
		1.0		Т				作業機械	-		-					SI-S			1	作業機械				
		in a		測定値		計	平均值	範囲	П		*			組の		測定値		計	平均值	範囲				
月日	測点	組の 番号	$X_1$	X <sub>2</sub>	X <sub>3</sub>	ΣΧ	$\overline{X}$	R				月日	測点	番号	X <sub>1</sub>	X <sub>2</sub>	X <sub>3</sub>	ΣΧ	- V	R				
		1		574	2770		Α	1900	1					1	24000#6		300,000	3 - 1-1-00/200	1	.0000				
		2							1					2							6			
		3								X	R			3			2					X	R	
		4							平均	$\bar{\bar{x}}$	R			4							平均	$\bar{\bar{\mathbf{x}}}$	$\overline{R}$	
		5							累計					5							累計			
小計									小計			小計									小計			
		6							-					6			-		-	-				
		7							-				-	7	-	-	-		-	1				
-	-	8						-	277.15.					9					-		平均	Ī	T _	
-		9							平均累計	$\overline{\overline{X}}$	R			10	2						累計	X	R	
小計		10						-				小計		10							小計			
71.61		11						-	G.BI					11			i i				10.40, 30.40			
		12						1				-		12										
		13						1	1					13										
		14												14										
		15							]					15										
		16												16										
		17							1					17										
		18												18						1		10-10-10		
		19							平均	X	R			19							平均	$\overline{\overline{X}}$	R	
alcored.		20							累計			小計		20							累計 小計	-		
小計 (注)					[記事]				小計		L	(注)	is-			1	[記事]			6	That			
(注) 1. 管理限界 による。 2. 21組から する。以 記入要領]	10組までに	は別のデー	ータシート		[[記事]							1. 管理 によ 2. 21糸 する [記入	lから40組まで 。以下、20組 要領]	さは別のラ ごとに同	データシート 様とする。	に記入				ū		-		
1.「項目名」 記入する 記入する 2.「月日」の 3.「番号」の 4.「測点」の	。 欄は測定 欄はSTA	年月を記 又はロッ	入する。 ト番号であ	る。	路工(含水)	量試験)等の	の品質特性		n d2 2 1.13 3 1.69 4 2.06 5 2.33	1.88 1.02 0.73	3.27 2.57 2.28	1.「項 記 <i>)</i> 2.「月 3.「番	目名」はコンク 、する。 日」の欄は測 号」の欄はSI 点」の欄の当	定年月を A又はロ	記入する。 ット番号であ	<b>う</b> る。	道路工(含水	量試験)等(	の品質特性		n d2 2 1.13 3 1.69 4 2.06 5 2.33	1.88 1.02 0.73	3.27 2.57 2.28	

					改	正 後												改	正 前	ń						備	考
様式7-2										3	考 维出書類僚式	様式	7-2							全督員 主任 監理	E 技術者			多考 提出書類様式	押印	印廃止	
<u> </u>	<u> </u>	R管理	里デー	タシー	- ト (2)								=	<u>X</u> –	R管理	里デー	タシー	- ト (2)	•						1,.	1-//0.313	
工事名						_	請負者	名				工事	名						_	請負者	- 名			<u> </u>			
工種名(名称	k)					4 3	測定者	· 名				工程	名(名	i 称)					_	測定者	· 名						
項目名(品質	(特性)					49 8	作成者	名			<del></del> 5	項目	名(品	質特性)					2)	作成者	· 名						
		8	設計 基準値	規格化	値限界	測定	]	日標準量	it.							設計	規格	値限界	測定	7	日標準量	量					
		250	基準框 A	上限	下限	単位		資大き	_							基準値 A	上限	下限	単位		資大き	ið					
				+	-		]	料間隔									+	=		]	料間						
1	7			測定値		計	平均值	作業機械 範囲	名		ī						測定値		計	平均値	作業機械	名					
月日	測点	組の番号	X <sub>1</sub>	100000000	X <sub>3</sub>	ΣX	X	A10940 - 04				月	日	測点	組の 番号	$X_1$	The state of the s	Х3	ΣX	X X	A10000 12						
			Λ <sub>1</sub>	X <sub>2</sub>	Ag	2.A	Λ	R	-							A <sub>1</sub>	X <sub>2</sub>	A3	2.X	A	R	1					
									-			-	-							4		-					
									_											+		-					
																		-									
(4)												-	- 2					-		1							
	)																			2.3							
0									-									4									
191	-												-														
	7.1	-							-				-					-				1					
		-							-													1					
		-							-											1							
																							200				
									平均	=	R											平均	$\overline{\overline{X}}$	R			
MA SERVICE OF THE									累計			1 00						194				累計					
小計									小計			1	計	-				44.6	200			小計					
特記													記											-			
(注) 1. 管理限 2. 21組から [記入要領] 1. 「項目名」 記入する。 2. 「月日」の 3. 「番号」の 4. 「測点」の	540組ま はコンク 。 欄は測定 欄はST.	では別の・ リート(セ) E年月を記 A又はロッ	データシー メントの物理 记入する。 ット番号であ	トに記入す。 『試験)、道 る。	る。以下、2	S SEASON THE SOUND SON		$\dot{c}$	n d2 2 1.13 3 1.69 4 2.06 5 2.33	1.02 0.73	2.57 2.28	1. 2. 記 1. 1. 2. 3.	管理的 21組力 及項目を 記入 日子 日子 日子 日子 日子 日子 日子 日子 日子 日子 日子 日子 日子	から40組ま [] G」はコンク	では別の リート(セ) E年月を記 A又はロッ	データシー メントの物理 己入する。 ット番号でお	里試験)、道	よる。 る <u>。以下、2</u> 路工(含水:		- 0.7500040000000	Č.	n d2 2 1.13 3 1.69 4 2.06 5 2.33	1.02 0.73	2.57			
(注) 1. 管理限 2. 21組から [記入要領] 1. 「項目名」 記入する。 2. 「月日」の 3. 「番号」の	540組ま はコンク 。 欄は測定 欄はST.	では別の・ リート(セ) E年月を記 A又はロッ	データシー メントの物理 记入する。 ット番号であ	トに記入す。 『試験)、道 る。	る。以下、2	S SEASON THE SOUND SON		$\dot{c}$	2 1.13 3 1.69 4 2.06	1.88 1.02 0.73	3.27 2.57 2.28	(注 1. 2. 記 1. 「記 2. 「 3. 「	管理的 21組力 及 項目名 で 日本 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	<u>から40組ま</u> [] 名」はコンク る。 の欄は測え の欄はST	では別の リート(セ) E年月を記 A又はロッ	データシー メントの物理 己入する。 ット番号でお	<ul><li>トに記入す</li><li>里試験)、道</li><li>がる。</li></ul>	る。以下、2		- 0.7500040000000	<b>*</b>	2 1.13 3 1.69 4 2.06	1.88 1.02 0.73	3.27 2.57 2.28			

X — K 官 理 図       名 称     工 事 名       品 質 特 性     根格値限界 下限値     計段値       測定 単 位     社 格値限界 下限値     対 ささ       測定 者 法     計 協 隔       情 機 後 名     計 隔 隔

- //C <u></u>		-					b 正 後												改	正	前					備考
様式8-1												参考 提出書頭様式	様式8-1												参考 提出書類模式	
		X – Rs	- Rm	1 管理	データシ	/ <b>-</b>  -	-								X - I	Rs - Rm	管理ラ	データシ	<b>&gt;−</b> ト	=		監督員	主任 技術者	io.		押印廃止
品質 測定 規格 限界	称 ·特性 単位 上限値 下限値 志準値				試料	工事名 標準量 大きさ 間隔 業機械名			測定 期間 請負 現場代 測定 作成	理人名 者名			品質 測定 規格 限界	<ul><li>称</li><li>・特性</li><li>・単位</li><li>上限値</li><li>下限値</li></ul>				武料	工事名  標準量 大きさ  間隔 業機械名			現場作	自 至 注者名 式理人名 三者名 或者名			
月日	試験番号		則定値 c		<u>3</u>  - Σ	平均値	移動範囲 Rs	測定値内の 範囲 Rm	$D_4 \cdot \overline{R}_S =$				月日	試験 番号	а	測定値 b c	d	計	平均値	移動範囲 Rs	測定値内の 範囲 Rm	$D_4 \cdot \overline{R}s =$	=			
	2								$D_4 \cdot \overline{R}_{m} =$		D	l p		2							4	D <sub>4</sub> •Rm	= X	Rs	Rm	
	3								平均	$\overline{X} =$	Rs $\overline{R}s =$	Rm Rm=		4	$\Box$					2		平均	$\overline{X} =$	Rs=	Rm=	
	5								累計	χ=	Ks=	Km=		5								累計		r(s-	Kiii —	
	小計								小計					小計								小計				
	7								X±E2•Rs=	. D <sub>4</sub> • <del>R</del> s=	D4•Rm=			7						3	AS .	X±E <sub>2</sub> ·Rs	$=$ , $D_4 \cdot \overline{Rs} =$ ,	. D4•Rm=		
	8		- 10				10	-9	平均	$\overline{X} =$	T	T <del>-</del>		8			+			_		平均		$\overline{R}_{S} =$	Rm=	
	小計		l e						累計	χ=	Rs=	$\overline{R}_{m}$ =		小計								累計	X=	Ks-	Kin —	
			Ţ,						小計													小計				
	9							-	X±E <sub>2</sub> •Rs=					9						A		X±E <sub>2</sub> ·Rs	=			
	10		-	+					$D_4 \cdot \overline{R}_S =$	D4·Rn				10	+		+			4	1	$D_4 \cdot \overline{Rs} =$	D4∙ <del>R</del> m	-		
	12								平均	$\overline{\chi} =$	$\overline{R}_{S} =$	$\overline{R}_{m}$ =		12								平均	$\overline{X} =$	Rs=	Rm=	
	13								累計	Λ=	Rs=	Rm=		13				1				累計	A-	IVS —	Kili —	
	小計								小計					小計								小計				
	14													14	$\Box$		-				-	1				
	15 16		-						$\overline{X} \pm E_2 \cdot \overline{R}_5$	=,				15 16				-		1		$\overline{X} \pm E_2 \cdot \overline{F}$	₹s=,			
	17								$D_4 \cdot \overline{Rs} =$	D4·Rn	n=			17			$\Box$					$D_4 \cdot \overline{R}_S =$	D4·Rm	n=		
	18								200,000	7000 F J (1000)	R			18									No. of Contract of the	-		
	19								平均	$\overline{X} =$	$\overline{R}s =$	Rm=		19								平均	$\overline{X}$ =	Rs=	Rm=	
	20						6		累計	i e				20						-		累計				
記事	小計								小計	10	D4	Eo	記事	小計				J				小計	d2	D4	E2	
aC-→									n 2	d2 1.13	D4 3.27	E2 2.66	nG-J*									2	1.13	3.27	2.66	
									3	1.69	2.57	1.77										3	1.69	2.57	1.77	
									4	2.06	2.28	1.46										4	2.06	2.28	1.46	
				-5-7-1	(備考)		。 -管理限界計算(			2.33	2.11	1.29					-5-7-1	0-10-1 (備考)		一管理限界計算	のための予備デ		2.33	2.11	1.29	
3. 以	下、最近2	20個(平均		 を1個と <sup>-</sup>			- 上記の管理限り 、次の10個に						3. V	下、最近	20個(	互均値Xを	- 1個とす				界を適用する区間 対する管理限り					

							Ē	改 正 🤻	後											改	正	前					備考
様式8-2		X - R	s – Rr	n 管理	!データ	タシート	の2						参考 提出書類様式	様式8-2	2	X - Rs	- Rm 管	で理デー	ータシー	-トの2	=					参与 提出書類様式	
月日	試験番号		測定			ł† Σ	平均値 X	移動範囲 Rs	測定値内の 範囲 Rm					月日	試験番号		測定値 b c	d	計 ∑	平均値	移動範囲 Rs	測定値内の 範囲 Rm					変更なし
										$\overline{X} \pm E_2 \cdot \overline{R}$	s=				-	1,734	200	294201				1	$\overline{X} \pm E_2 \cdot \overline{R}$	$\bar{t}_s =$			
										$D_4 \cdot \overline{R}s =$													$D_4 \cdot \overline{R}_S =$				
			_	_		_				$D_4 \cdot \overline{R}_m =$													$D_4 \cdot \overline{R}_m =$	=:			
																						- E					
			+	_	-						X	Rs	Rm											X	Rs	Rm	
										平均	$\overline{\chi}$ =	Rs=	Rm=										平均	$\overline{\chi}$ =	R̄s=	Rm=	
	小計									累計 小計					小計								累計 小計				
		+	$\rightarrow$	-	+																				•		
		$\Box$	1	1	1	1				$\overline{X} \pm E_2 \cdot \overline{R}$	s=												$\overline{X}\pm E_2 \cdot \overline{R}$	-s			
			1	1						$D_4 \cdot \overline{R}_s =$									3			1.	$D_4 \cdot \overline{R}_S =$				
		+	$\rightarrow$	+	+	_				$D_4 \cdot \overline{R}_m =$					8							-2	1				
										D <sub>4</sub> ·Km=													$D_4 \cdot \overline{R}_m =$				
		+	+	+	+	-	.5			平均	$\overline{X} =$	$\overline{R}_{S}=$	$\overline{R}m =$										平均	$\overline{X} =$	$\overline{R}_{S}$ =	Rm=	
	小計						,			累計 小計					1.51								累計	A-	INS-	Kill	
	74591	$\Box$								/1/p1		1.			小計								小計			-	
		+	$\dashv$	+	+	_				$\overline{X}\pm E_2 \cdot \overline{R}$	s=												$\overline{X} \pm E_2 \cdot \overline{R}$	- -			
										$D_4 \cdot \overline{R}_S =$													$D_4 \cdot \overline{R}_S =$				
										1									- 57				1				
		+	-	+	+					$D_4 \cdot \overline{R}_m =$													$D_4 \cdot \overline{R}m =$	=			
										平均	$\overline{\chi}$ =	$\overline{R}_S =$	$\overline{R}_{m} =$										平均	$\overline{X} =$	Rs=	$\overline{R}m =$	
	小計									累計 小計					小計								累計 小計			7	
		$\blacksquare$	-	-															- 5			2				9	
										$\overline{X} \pm E_2 \cdot \overline{R}$	s=												$\overline{X} \pm E_2 \cdot \overline{R}$	s=			
			-	-	+					$D_4 \cdot \overline{R}_S =$													$D_4 \cdot \overline{R}s =$				
										$D_4 \cdot \overline{R}_m =$									, A				$D_4 \cdot \overline{R}_m =$				
			-	-						平均 累計	$\overline{\chi}$ =	Rs=	Rm=										平均 累計	$\overline{\chi}$ =	Rs=	$\overline{R}m=$	
記事	小計									小計	d31	D4	E3		小計		-					10	小計				
BC 4+										2 3	1.13	3.27	2.66 1.77	記事									2 3	d31 1.13 1.69	D4 3.27 2.57	E3 2.66	
										4 5	2.06	2.28	1.46										4 5	2.06 2.33	2.28 2.11	1.46	
					10-10	)-10方3	た値を記入 式による。													れた値を記力 方式による。	しする。		1 0	2.00	2.11	1 2.20	
					(備	考)			のための予備デー		す。			2. BA		- JI INLU		. 10	(備考)			(のための予備デー		<b>;</b> †.			
3. E	下、最近2	20個(平	均值X	 を1個と	ナる)				Rを適用する区間 トる管理限界と					3. 以下	、最近20	)個(平均	り値Xを1何	個とする				界を適用する区間 する管理限界と					

設計基準値     工事名     名       名     期間     自       名     財産値限界     上限値     計配       間定単位     対法     対数に対し     対数に対し       関定方法     対数に対し     対数に対し       情報名     対数に対し